

負別阿弥陀仏おひわけは来迎堂らいかうの南蓮光寺れんくわうじにあり。此本尊は嘉禎年中に、東国の僧都そうみやこに登りて仏工安阿弥ぶつこうに阿弥陀仏の像を願ふ、像成就し帰らんとする時、安阿弥此尊像稀代なりとて甚をしみ、今一度拜せんと跡を慕ふて趨る。山科郷やましながうにて追つき此旨を語るに、かの僧則笈を開けば、尊像分身して二体となる。二人とも奇異の思ひをなし、二尊を東西に負ふて別る、其地を今山科しなの負別おひわけといふ。安阿弥が負帰りし尊像当寺本尊なり。

馬止地蔵うまとめのちざう〔当寺にあり石仏なり。此尊像土中に埋れありし時、平清盛駒たひらのきよもりに乗じて通りしに、馬途に止て進まず、不思議をなして堀らしむるに、此石像出現せり。夫より六条河原の斬罪の場にありしといふ〕